

カンボジア与野党若手政治関係者ブリーフィング



日 時：2018年12月7日（金）11時00分～12時00分

会 場：TKP 東京駅丸の内会議室 カンファレンスルーム4（帝劇ビル地下一階）

来 訪 者：ソム・ピスット ケップ州副知事（人民党）

ほか選挙参加政党7名（人民党2名、その他政党5名）、
その他在野の政治関係者2名

言 語：日本語—カンボジア語 逐時通訳

応 対 者：大下英和 日本メコン地域経済委員会事務総長

同 席 者：斉田幸雄 外務省アジア大洋州局南部アジア部南東アジア第一課長 ほか

来 日 目 的：・カンボジアの次世代を担う若手政治関係者が、日本の複数政党制民主主義についての見識を深め、右を自国の参考とする機会を提供し、もって次回総選挙を含めた今後のカンボジアにおける複数政党制民主主義の定着を促進させる。

・併せて、参加者の対日理解を促進し、日本の外交姿勢や魅力等についての対外的発信を促す。

以上二点を目的とし、外務省により招へい。

概要：

大下事務総長より、日本商工会議所および日本メコン地域経済委員会に関して説明。カンボジアとの最近の関わりとして、2018年10月9日にフンセン首相らをお迎えしてメコン5ヵ国首脳歓迎昼食会を開催、8月にはタイ・バンコクで「第11回日メコン産業政府対話」へ出席したことを伝え、「産業の高度化」と「連結性の強化」に向け「3つの連結」（①産業②ハード③ソフト）に重点を置く「メコン産業開発ビジョン」の推進を産業界からも求めたこと、また、メコン地域の連結性においてバンコクとホーチミンに挟まれた地理的な優位性を持つカンボジアへの期待は大きいと強調した。日本メコン地域経済委員会で2016年10月にベトナム・カンボジアミッションを派遣し、ソラサック商業大臣表敬、南部経済回廊にかかるつばさ橋、プノンペン経済特区、アンコールワットなどを訪問したことを述べ、日本企業が進出するにあたってのカンボジアの魅力として、若く豊富な労働力・親日的な国民

性・土地所有を除き内外法人無差別を規定した投資法・地理的な優位性・日本からの直行便や学校そして病院など日本企業の生活インフラの整備などを挙げた。一方、今後の課題としては、一つ目に品質管理の難しさや従業員の賃金上昇、従業員の質を含めた人材の確保・育成、二つ目に裾野産業の発展、三つ目に通関等諸手続きの煩雑さがあると指摘した。加えて、政治・経済の安定が経済発展には大変重要であると強調し、日本とカンボジアの経済連携強化にぜひ、カンボジア政府のご協力をお願いしたいと呼びかけた。

これに対し、ソム・ピスット副知事は、専門性を持った人材育成が不可欠であるとの認識を述べ、社会基盤・社会福祉・人材育成へ多くの予算が配分されたことを強調し、先に挙げられた諸課題解決への意欲的姿勢を示した。

以上